市職員の職場環境の改善を!

民報 おうしゅう 読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目 59
Tel 24−2021
Fax 24−2049

９月28日閉会した奥州市議会９月定例会では、令和７年度の決算審査が決算審査特別委員会（今野裕文委員長）において行われました。日本共産党奥州市議団は市民の福祉向上の立場から、審査に臨みました。今号では、政策企画・総務・協働まちづくり部門などの質疑を紹介します。

担当保健師を採用

担当者は「今年度から、保健師資格を持つ方を会計年度任用職員として採用して、アドバイスをいただきながら面談などで職員の心のケアをしている。また、メンタルヘルス対策の実行計画を年度内に完成させる」と述べました。



市長等のハラスメントへの対応は

佐藤美雪議員は、全国的に市長または特別職からのハラスメントが報告されているが、職員の人権や職場環境をしっかり守る観点から条例の制定などが必要ではないか、と質しました。

条例制定を検討

担当部長は「ハラスメントを受けた職員の負担は大きいと思う。職場環境を良好に保つことが必要であり、条例制定を検討していく」と述べました。

正規職員を増やすべき

千葉敦議員は、多くの会計年度任用職員を雇用しなければならない業務量があるのであれば、その業務量に見合った職員数を正規職員として確保することが必要ではないか、と質しました。



奥州市の医療職を含む市職員数は、令和８年４月１日現在、正規職員が１０５５人（59・7％）日々雇用職員を除く会計年度任用職員が７１２人（40・3％）です。約９割の会計年度任用職員は次年度も継続雇用されています。

会計年度任用職員の年収は、経験年数３年以上の週５日間30時間事務補助で、令和７年度、２６１万５千円ほどです。

将来は職員を減らす

担当者は「行政運営を円滑にしていくために、人口減少が続く中、将来職員数を一定程度減らしていかなければと、考えている。行財政改革やデジタルを使った業務の効率化などで仕事量を減らしていきたい」と述べました。

メンタルヘルス疾患 増える

奥州市職員の精神疾患での病気休暇者は23名、休職の職員は11名と昨年度と比べ微増しています。

佐藤美雪議員は、この間も市として相談や支援されていると思うが、メンタルヘルスの疾患を抱える職員が増えている原因をどう捉えているか、質しました。

地域会議の提言活用を

千田美津子議員は、地域会議で議論された提言書について、回答をしっかり地域会議に返していくことが大事ではないか、と質しました。

公表につとめる

担当者は「市民参画を推進する立場として、行政の閉じられた空間だけにとどめるのはよくないので、ホームページ等での公表とともに、地域会議の開催を調整していく」と述べました。

地域の声を市政に

千田美津子議員は、地域会議の開催を待たずして、地域の委員に送付・公表する同時に地域の声を市政に反映させるよう提言書を活用するよう、求めました。

ささらホール 後継施設を早期に

倉成前市長が進めてきた羅針盤プロジェクトの中の「江刺市街地エリア開発整備基本計画」は２月の全員協議会で、中間案が示されました。

郷右近市長は、７月に組織再編を行い、担当の未来羅針盤課を解体して各部署が引継ぎ、事業推進が停滞しています。

千葉敦議員は、廃止された江刺体育文化会館（ささらホール）の後継施設いわゆる多機能文化交流施設、市民の要望が大きい子育て世帯を応援する施設の必要性が高まっているので、計画推進を要望しました。

庁内連携で進める

担当部長は「住民の皆さんがこれからどうなっていくのか不安になるのは、理解している。その財源や実現可能性を含め、関係課で庁内連携して進めていく。情報提供と住民理解に努めていく」と述べました。

戦争をとめる！　憲法守る！

ペンライトスタンディング

日時：10 月 19 日（月）午後 6 時
場所：水沢 Z プラザアテルイ前
主催：国民大運動胆江地区実行委員会